

平成28年度 第1回山陽小野田市公民館運営審議会 議事録

- 日 時 平成28年11月21日(月) 14時～16時00分
- 場 所 山陽小野田市役所 3階 第2委員会室
- 出席者
 - ・運営審議会委員11名
(岡本会長 水田委員 吉川委員 大本委員 平野委員 藤田委員 高橋委員
平中委員 大森委員 川口委員 石川委員)
 - ・事務局20名
(江澤教育長 尾山教育部長 和西中央公民館長 臼井社会教育課長補佐
西村社会教育係長 柿並中央公民館主事 中野社会教育課主任主事
下瀬学校教育課主幹 松浦CSコンダクター
神徳本山公民館長 木原赤崎公民館長 藤村須恵公民館長 岡田小野田公民館長
末富高泊公民館長 谷岡高千帆公民館長 山下有帆公民館長 江中厚狭公民館長
能勢出合公民館長 佐々木埴生公民館長 増本厚陽公民館主事)
- 欠席者 4名 (中務委員 千々松委員 松岡委員 森本委員)
- 審議会の成立 委員15名中11名出席
運営審議会規則第3条第3項により成立

臼井社会教育課補佐

定刻よりも少し早いのですが、皆様お揃いになりましたので、ただ今より会議を始めさせていただきます。皆様方には公私ともご多忙の中、御出席いただき誠にありがとうございます。本日の進行を務めます臼井と申します。どうぞよろしくお願いたします。

まず、資料の確認をさせていただきたいと思います。お手元のレジュメをめくっていただきまして、右肩にそれぞれ番号をふっております。まず、1-1市条例でございます。次に1-2条例の施行規則でございます。1-3に公民館運営審議会の規則がございます。続いて、資料2としてですね、審議会の委員名簿が付いておろうかと思っております。次に資料3平成28年度公民館事業実施報告書というのがあるかと思っております。その次に資料4教育委員会組織機構、次に資料5山陽小野田市教育大綱、資料6社会教育推進の指針、資料7やまぐち型地域連携教育、資料8学校支援地域本部の活動状況というのについておろうかと。最後に、資料9としてコミュニティスクールのアンケートがあろうかと思っております。資料のない方がもし、い

らっしゃれば、お申出いただければと思います。

よろしいでしょうか。では、ただ今より、平成28年度 第1回 山陽小野田市公民館運営審議会を開会いたします。

まず、始めに今年度を持って任務の改選が行われておりますので、辞令交付を行いたいと思います。江澤教育長から委員に辞令をお渡ししますのでそのまま席でお受取ください。

(教育長より川口委員に辞令交付)

任期：平成28年5月26日から平成29年7月31日まで

臼井社会教育課長補佐

では、江澤教育長よりご挨拶申し上げます。

江澤教育長

皆様、改めましてこんにちは。大変お忙しいところお集まりくださいましてありがとうございます。今日が今年度の第1回目の公民館運営審議会でございます。皆様には、平素から公民館運営にご尽力いただきまして誠にありがとうございます。

さて、ご承知のとおり今年度山口県の公立小中学校では、コミュニティスクールの設置率が100%になりました。学校と地域がパートナーとして連携、協働し、地域でどのような子どもを育てるのか、何を実現していくのかというような育てたい子ども像や地域像を、地域住民と保護者、学校が共有し、学校を核として取り組んでいこうとするものです。本市におきましては、社会教育における学校支援地域本部事業、今までこれが走っていたわけですが、今もそれは並行して走っています。これと一体化した本市独自のシステムを基にコミュニティスクールを地域づくりに波及させているところです。本日の資料にもありますように、本市の社会教育指針、推進の指針の分野別努力事項に「地域力・学校力・家庭力向上プロジェクト！」の実践が示されております。皆様もいろいろなところでこの会議やいろいろなことを聞かれていると思いますし、学校の方でもいろいろなことをお願いされておられるんじゃないかと思います。具体的には、公民館にコーディネーター的な役割を持たせて地域から学校への支援や、学校からの地域貢献などの協働活動を行うというものです。地域側に軸足を置いた公民館が中心となって担い、地域、学校、家庭との連携を促進し、学社融合を見据えた仕組みづくりを行っております。これは、公民館が講座や行事などの活動を通じ、多様な知識を持った人、地域の文化や歴史などの地域資源を網羅したこの公民館だからこそできるわけでございます。

また、学校の運営協議会にも公民館長が任命されております。そして実際に公民

館での講座、いろいろな講座があるわけですが、これを学校の施設を利用して実施し地域住民が学校に足を運ぶ機会を増やしております。講座参加者が授業を自由に参観したり、昼休みにふれ合ったり温かい活動が行われております。学校が地域の学びの場の拠点、地域住民の交流の場として段々と活躍の場が広がっているわけです。子どもにとっても地域にとっても望ましい方向ではないかと考えております。まさに地域と共にある学校、地域コミュニティ活性化のひとつの取り組みだと思います。年々この社会教育というのは、変わらないようでご存知のようにいろいろなことが変わっております。国の教育方針がいろいろと変化しております。そういったなかで、この運営審議会というのは非常に重要な位置を占めておりまして、これからの公民館活動、また地域活動、そして教育活動全般においてどうぞご理解を願いながら、忌憚のないご教授を行っていただいて、またそれぞれの地域、市の社会教育が一層進みますようによろしくお願いいたします。簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。

臼井社会教育課長補佐

ありがとうございました。続きまして、岡本会長よりご挨拶と参りたいと思います。よろしく申し上げます。

岡本会長

紹介いただきました岡本と申します。今、教育長からお話がありましたけれど公民館を中心にですね、地域の歩を進めていくということですが、無理をしない程度に頑張っていておりますけど、ここにおられる委員のみなさまにもそういうことで要請があつてですね、ちょっときついのではないかという面もあると思います。学校の方から要請があつたらまとまって出ないと（いけない）とそういう風な認識をみなさんお持ちでしょう。あんまり強制されますと大儀になるのではないかというような面もあるのではないかと思います。それから地域力といひますか、地域のみなさん方に昨日もちょっと高泊地区の防災訓練実行届がありました。本山地区の吉川さんのところもやられた。だいたい270名くらいの届出がされたと思いますがそのくらいの意欲のある人はですね、地域におられるというのですね、関心があるということです。ですが、その地域全体に渡ってそれが影響しておるかどうかとなると疑問点がある。今、地域力とか学校力、それから今、家庭にお願いすることいろいろなことがありますけど、あまり早急に事を進めていただくとなかなかついていけないのではないかと思います。それが今も社会福祉関係もすべてそうですね。メンバーもここにおられる方も自治会長さんが多いですが、全部そういうところに要求してこられます。それを、どこの組織も自治会を通して関与せざるを得ないのですが、逃げるわけにはいかない。市の

当局にも言いたいのはですね、やっぱり早急に事を進めてもらおうと若干、意志の疎通を欠くのではないかと思うところです。それから、もう一つは地域全体の皆さん方がですね公民館が中心だという思いがないのではないかという気持ちもします。ある一部の方々については十分にあると思いますけど、公民館がどこにあるか、或いは行ったことがないよという方もたくさんおられる。そういった方も巻き込んでいかないといけませんので、それには啓発も非常に重要だと考えてもおります。あまり急いでですね、あれもやれ、これもやれというふうなこうを言っていたくと若干やれないよという話になろうかなという恐れもあるということで、その辺だけはお願い申し上げておきたいと思います。

今日は、第1回の公民館の審議会だということでご出席いただき大変ありがとうございました。それから配布の資料関係についてもご説明もあろうと思いますが、それと意見交換もあるよというお話もごありますが、ぜひ、あまり時間などかけないで進めていきたいと思っておりますのでご了解をいただきたいなと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

臼井社会教育課長補佐

ありがとうございました。先ほど辞令交付がございましたように小学校校長会から川口先生に新たに委員になっていただいております。

また、館長が4名それから事務局も若干顔ぶれが変わりましたのでここで自己紹介をさせていただければと存じます。まずは、吉川委員から順番にお願いします。

(吉川委員から自己紹介。委員自己紹介終了後、教育長から順に事務局紹介、公民館長紹介)

臼井社会教育課長補佐

ここで、誠に申し訳ございません。教育長が他の公務がございましてここで退席とさせていただきます。

(教育長退席)

臼井社会教育課長補佐

議事に入ります前に、本会の成立でございます。全委員15名のうち11名の方にご出席をいただいておりますので、山陽小野田市公民館運営審議会規則第3条第3項により委員の過半数以上の出席があるということで会議が成立しましたことをまずもって報告させていただきます。

また、山陽小野田市執行機関の附属機関における審議会等の会議の公開に関する要綱により、この会議終了後には事務局において議事録を作成し、本ホームページに閲覧に供することとなりますのでご了承いただければと思います。それでは、公民館運営審議会規則第3条第2項により、審議会の議長は会長となっておりますので以降の議事進行を岡本会長にお願いしたいと存じます。よろしく申し上げます。

岡本会長

それでは、議長にさせていただいて進行させていただきます。皆さん方のご協力を得ながらスムーズに進めたいと思いますのでお願いを申し上げておきたいと思っております。早速、議事にはいらさせていただきますが、平成28年度各公民館事業実施報告(上半期)について、議題とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。先に本山ですかね、本山、赤崎、須恵、小野田、高泊、高千帆、有帆、厚狭、出合、厚陽、埴生という順でよろしくお願いいたします。できるだけ簡潔にお願いしたいと思います。

神徳本山公民館長

それでは本山校区の様子についてお伝えいたします。本山校区の大きな特徴として、竜王山、本山岬、きららビーチといった豊かな自然を活かし、人情味溢れる元気な本山の人々に支えられた活動となっております。そこに、取り組みの様子を表示しておりますけども、成果のところはですね、そのひとつとして新規の講座を今年度開設いたしました。その表の中に少し太い字で1ページ目、2ページ目に書いてありますけども、これらにつきましてはですね地域の方の要望というか、「こういうことをしたらいい。」というようなことをお聞きしながら開設したものです。特に染色教室につきましてはですね、竜王山に生息するアカネという植物があります。これをですね栽培して染色の材料として用いて染物をしたらどうだろうということで、そのアカネというのは3年ぐらい経たないと使えないんですけども、そういうような染色の担い手を育成するために今年度から染色教室というものを開催しております。こういった新しい講座については、希望者も多くてですね、結構そういった面では盛んな活動となっております。

それから、成果の2番目として地域の諸団体との協力、連携ということで1番右側の備考欄にですね、主催講座とか或いは他の諸団体との連携の様子が書いてあります。公民館の活動においてもですね、ふるさとづくり(協議会)、或いは地区社協、或いは自治協、或いはボランティア団体の本山会、そういった方々がですね一挙的に協力いただいてですね、一緒になって校区の活動をやっております。特に2枚目のですね、その他のところのふれあい部門のところについては、たくさん

ですね、地域行事、活動を行っているところです。

学校との連携ではですね、本山小学校につきましてはさまざまな諸活動にやはり地域の人々、或いは私も学校のほうと連携を取りながら、学校の要望や、或いは地域への参画を呼びかけております。特に親子で参加する、参加できる公民館活動を工夫しております。2枚目のあたりに親子というのがありますけれど、そのあたりを中心にですねそういったふれあい活動を工夫してやっております。竜王中学校との関係におきましては、今年度文化祭のステージ発表において本山の公民館クラブが2団体ほどステージで発表しております。そういうことで公民館のクラブ活動を学校で活かすということも行っておりますし、逆にですね中学生ですのでかなり大きいのでさまざまな諸活動にボランティア活動として手伝ってもらっております。今年度においても既にですね、マグダーツ大会、それから慰霊祭・盆踊り大会、竜王山ウォークなど中学生がボランティアとして加わって一緒に活動しているところです。あと、たくさんありますけれど、また表を見ていただけたらと思います。

それから、課題としては幅広い年齢層の方に参加していただくにはどうしたらいいんだろうか。というのが、やはり課題にあります。今年度そういったことで、啓発として毎月15日に「わくわくどきどき本山」というですね、広報紙を作って回覧をしてですね、多くの人に参加を呼びかけているところです。

以上簡単ではありますが、活動の様子をご報告いたします。どうも失礼いたしました。

木原赤崎公民館長

それでは、赤崎公民館のご報告をさせていただきます。事業内容については、例年と特別に変わったことはありませんので、今日は学校支援について報告させていただきます。お手元の「地域力・学校力・家庭力向上プロジェクト！シート」の2枚目になります。昨年からコミュニティスクールがスタートして赤崎小学校の家庭科の学習支援が本格的に始まっております。今年度も学校から要請を受けて活動しております。内容は、6年生のナップザックを作るときのミシンの指導、5年生の裁縫で玉留め、玉結び、ボタン付けなどです。クラブ受講生の高齢化により、地域貢献とか学習支援とかなかなか理解していただけないのが現状で公民館クラブだけの対応は、なかなか十分ではございません。そこで、公民館に併設されております中央図書館赤崎分館をご利用されている方にもご協力を呼びかけて支援活動をしております。28年度からは、さらにこの支援の輪を広げるため児童のお母さんにも声掛けしたところ、なんと19名もの方が参加されマンツーマンで指導することができました。授業の終了が12時を過ぎるために学校にお願いして、給食の希望者には給食代250円を持参して、児童と一緒に給

食を食べていただき、Win-Winの関係が築かれつつあります。2学期からは、放課後クラブ活動が始まりクラブへの参加をお願いしているところでありま
す。クラブの内容といたしましては、将棋、編物、こま回し、輪回し、お手玉、折
り紙といったところです。今後の展開と課題については、育友会を通して学校の要
求をメールで保護者に流してもらって、お母さん方の保護者の参加をですね、募っ
ていければ、ずっとこのような活動が続けていけるであろうと思っています。た
だ、公民館の方でせつかく人集めをしても受け入れ側の学校の方でまだ十分でな
いところも見えます。以上です。

藤村須恵公民館長

続きまして須恵公民館でございます。事業の報告につきましては例年通り行っ
ておりますけど、特に郷土の歴史を学ぼうということで3年目でございますけど
須恵歴史講座、大変盛況でございます。毎年人数が増えておると大変喜ばしいこ
とでなかろうかと思っておりますけど、特に今年度は現地探訪2回ほどさせてい
ただきまして、1回目につきましては11月30日に実施したところございま
す。ところがなかなか公用車等の手配が難しくございまして、大変苦慮しておると
ころでございます。大変みなさま方にも好評ということで来年度も出来ればなあ
と思っております。以上です。

それから、学校との連携につきましては今年度初めて夏休みに寺子屋教室を小
学校と連携して3日間やりました。会場は、通常なら小学校という形ですけど、公
民館を使わせていただきまして、公民館のクラブそれぞれの方の指導、助言をいた
だくなかで大変盛況に開くことができました。後ほど話が出るんじゃないかと思
いますけれども、参加者も結構ありまして、また、クラブ員の方々も大変よろこん
でおられて、できれば今度は学校でやるという方向にワンステップ行ければなあ
と思っております。以上です。

岡田小野田公民館長

続きまして小野田公民館です。小野田公民館は毎年剪定教室として小野田小学
校の方に入っております。今年は特に長雨のために参加者の変動がございました
ので保護者の方、地域の方、公民館クラブの方、学校の先生といった全ての方たち
に声をお掛けしたところほとんど参加していただきまして、2回する剪定教室が
1回で終わることができました。

また、今年から新しくタブレットというインターネットの機械が入りました
ので、初めてなのですけれども小学校の保護者、先生、学生等にいろいろ意見を聞き
ながら（パソコンでのプログラム教室を）実施することができました。以上ござ
います。

末富高泊公民館長

続きまして高泊公民館です。お手元の資料の方少し字が小さいので、かいつまんでご説明させていただきます。講座の方は、地元の企業、地元の歴史、言葉、受講を通じてふるさとを深く知ろうというテーマで今年度教養講座をしておりますが、今まで参加者が多く、評判がよい状況でございます。

学校との連携なんです、高泊小学校とは公民館クラブの方の卓球のクラブの方ですが、その方の協力を得まして学校の4・5・6年生対象の卓球クラブというのがありまして、これに出向いて行って一緒に卓球をしようねということで始めました。参加者の中からの意見なんです、まずは躰とマナーから教える必要があるねという声が上がっている状況です。

下期に教養講座のなかで、「知っちょる？高泊の歴史」と小学校の多目的ホールで開催する予定です。これは、6年生児童と地域住民が受講しましてその後地域住民は給食を6年生と一緒に食べて帰ろうということで、ちょっと学校の方に無理を言ってお願いをしております。

高千帆中学校の方ですが、こちらは2年生が毎年11月の中旬ぐらいですか、2日間に分けて職場体験学習を行っておりますが、体験先企業の数がどうしても長く続けておると頭打ちになってしまっておりまして、それならということで新規開拓を行おうということで動きました。50数社に訪問してお願いしたところ、41社から回答が得られまして、そのうち「いいですよ。」という前向きな回答は32社にあがりました。その中から生徒が選んでくれたのは、約3分の1強の14社でありましたが、11月の7、8でしたかね、2日間に渡って職場体験を行っております。

これともうひとつ、学校職員室の廊下の方に学校の方で地域からのお知らせという掲示板を設置していただいております。これに地域の行事、祭りとかいふことの参加とボランティアで協力してくれないかというお願いを地域から統一様式で出そうということで、その統一様式を作りまして各地域の団体の会長と事務局長に出向いて趣旨を説明してそのお願い文と様式を手渡しております。今後これを見て生徒たちが地域行事の参加とかボランティアに数多く参加してくれたらいいかなと思っています。以上でございます。

谷岡高千帆公民館長

それでは高千帆公民館です。公民館の講座といたしましては、私は残念ながら、今年度が初年度でございます、昨年とほとんど同様のことを継続してやっているという状況でございます。その中でも高千帆の特徴といたしましては、子どもたちと一緒にですね、勉強したり、物を作ったりということで1番最後にありますけれども子ども対象の講座がたくさんございます。今、特に子どもたちにお茶とか物づ

くりというのに人気がありますので、そういったことを一緒にこれからも取り組んでいきたいなと思います。

公民館に私は、4月から勤め出しまして、1番感じていることは、女性会その他で公民館にいらっしゃる女性たちがすごく元気なんですけれど、その女性たちに対して男性はいまいち元気がないなということで、これからは男性に元気になっていただいて地域を盛り上げていただけるような講座を考えていきたいなという風に思っております。

また、公民館には小学生に結構来ていただいているのですが、中学生がほとんど来られていないということで、いかにして中学生を巻き込むかというのがテーマではないかなと思っております。

私共の校区では、石川会長さんをはじめ地域の行事が盛んでございまして、地域の中で盛り上げようという雰囲気はすごくありますので、しっかり活かしながら頑張っていきたいと思っております。以上でございます。

山下有帆公民館長

有帆公民館です。有帆公民館の方での今年度の成果といたしましては、今年度からと言いますか、料理教室というのが男性しかありませんでしたので、今回女性を対象といったわけではないんですが一般成人を対象として、できれば若い方を参加しやすくするために土曜日に開催するという土曜料理教室を開催いたしましたところ親子の方もいらっしゃいましたが20代、30代、40代の方が数人入られてまして非常によかったなあと、初期の目的が達成したかなと思っております。こういった若い方ですね、輪が広がればもっともっと良くなるのではと思っております。

それから、従来から歴史探訪講座というのも有帆公民館ではやっておりましたが、これは有帆地区対象としてやっておりました。3年間やりまして、ほぼ有帆地区についての歴史はみなさんに学んでいただいたということで、今年度から厚狭地区の歴史探訪講座を始めましたところ非常に好評であったということで、これにつきましては当然厚狭地区はもちろんですが他の地区を含めましてどんどん歴史探訪講座も広めて行きたいと思っております。

それから課題といたしましては、他の公民館では既に小学校で講座等を開催しておられますけれど、私どもはまだそういったことをしておりませんので、そういった形のなかで、小学校と連携したなかでの講座の開催をしたいと思っております。

それから有帆公民館では、公民館クラブの活動の場の、場と言いますか、発表をする場として学習フェスタというものを公民館独自で行っておりますが、なかなか関係者は多いんですけれど、地域の方になかなか来てもらえないところがあり

ますので、そういったところを是非ともですね何とか対策を練って生涯学習の場が広がるようにしていければと思っております。

それと、学校との連携ですけど、一応今は公民館長が第2コーディネーターということで、今有帆小学校には2名のコーディネーターがおられますけど、その方と一緒に年度の途中からなんですけれど打ち合わせとか入りまして学校との連携もこれか随時深めて行きたいと思っております。以上でございます。

江中厚狭公民館長

続きまして厚狭公民館でございます。講座等については今年度新規事業というのはございませんけれど、特徴的なところをいくつかご説明させていただきますと教養講座になりますけれど、寿大学、婦人学級、月1回ずつではございますけれどもさまざまな講師に来ていただいておりますので、参加者から大変好評を博しておるところでございます。それから男性料理教室ということで男の腕まくり、それから夏休みになりますけれども小学校の方とタイアップいたしまして親子のパンづくり教室、物づくり教室をしておりますが、特に今年度親子のパンづくり教室は午前の講座だけの予定だったんですけども、ご覧おきいただいておりますとおり78名の希望者がありましたので全員お断りすることなく、講師の方のご好意で午前、午後に分けてパンづくりをすることができました。

それから、後ご覧おきのとおり地域の球技大会であったり、それから市民運動会の厚狭大会、それからめくっていただいておりますとづくり納涼祭等実施いたしまして、大変たくさんの方に参加いただきました。それから、厚狭公民館まつりという名称ではございますけれど、今年度ご案内のとおりに複合施設となっておりますので図書館と隣併せということで、図書館友の会とも連携をしながら公民館と図書館でお祭りを10月にいたしました。9月30日現在での実施でございますので予定という風に入れておりますけど既に実施はできております。それから、最後に書いてあります、今後にありますけれども松獄山初日を迎える会、実は今年度実施をしますと52回目になります。50年以上続いている大変伝統のある行事でありますので、こちらは特に中学校にも、これまで親子でも、中学生、小学生が来てくれていたんですけども、特に先日小学校も学校だよりにしっかり紹介したいということの連絡もありましたし、中学校に至ってはふるさとづくり(協議会)の方のご相談もありまして、できるだけたくさんの生徒に呼びかけてみようということをおっしゃっておりますので期待しているところでございます。

それから小・中学校との連携につきましては、小学校、中学校ともに地域が頑張っておられるのは他の小・中学校と同じなんですけども、今度は逆に小学校からあるいは中学校から出かけていくということについて、ご案内のように今年からコミュニティスクールが全小・中学校でスタートしておりますので、小学校におきま

しては特に地域にということ、地域を知るということですね、厚狭のまち魅力発見スタンプラリーということ、地域に出かけて行って子どもたちがしっかり学習するということ、それからこれは今後の予定ですが、寝太郎の里おひなさまめぐりということで、同じく小学校でひな壇の組み立てのお手伝い、それから周辺の清掃というボランティア活動をいま計画しているところでございます。

それから中学校におきましては、新体力テスト。各学校で実施していらっしゃると思いますけれどもそこに地域の方もどうぞという風に呼びかけをして実施をされました。それから先だって11月8日のことですが、コミュニティスクール音楽コンサートと題して地域の方にも呼びかけられて、行かれた方が実はその直後に公民館にいられて「大変すばらしかった。」という風に感想を述べておられました。それから併せてウクレレ教室、音楽のほうですが、音楽に堪能な先生方も多数おられますので、地域に呼びかけてウクレレ教室年4回だったと聞いておりますけれども、既に2回は済んでおりますけれどもウクレレ教室も学校の方で地域に呼びかけて実施をしていると。

それからさつき松獄山初日の会のことを言いましたけれども、今後中学校も積極的に参加していただけるということになっているところでございます。以上でございます。

能勢出合公民館長

それでは続きまして出合公民館でございます。出合公民館の方では昨年度からですね利用者対象に公民館評価を実施しております。そしてその評価、アンケートを基に、出た意見を参考にしながら今年度の運営について方向を決めて実施していくということを考えております。今年度第2回目の評価を実施いたしましたけれども各項目に渡ってですね、昨年度より公民館利用者のみなさんからの評価はいい結果を得ております。

講座についてでございますが、今年度は特にですね教養講座、それから健康講座、これらを充実するようにいたしました。それから、次に地域課題に対する講座、例えば防災講座とか子育て講座等ですね。この辺の地域課題に対応するべきものでございますけれどもこれらの講座の新設をいたしました。また、昨年度からでございますが子ども向けの教室、夏休み子ども教室、料理教室これらの子どもを対象にした教室も広げるようにしております。特に今年度新設したパソコン教室、あるいは切り絵教室などの教室はですね、非常に好評でございました。しかし、先ほど申しました防災講座とか子育て教室、これらの新規講座でございますけれども地域課題に対応するために設置したんでございますけれども、これらに対する講座、実のところ参加者が少ないというのが現状でございます。それで、全般的に見ましても若年層の参加、あるいは公民館の利用が少ないというところが大きな課

題でございます。

また、そういったことも踏まえ、高齢者の方は割りに多く利用されておりますけれども、その利用される方々も特定の方が多く利用されておられるというような実態もあります。それらのことを考えるとですね利用者の幅というのがあまり広がらない、広がっていないというのが課題でございます。したがって、それらの年齢層の幅をどうするか、またその中でも特に若年層の方々に公民館に来ていただく、あるいは講座を利用していただくためにはどうするかっていうのはこれから大きい課題として考えておるところでございます。

最後に学校との連携でございますけれども特に本公民館では先ほども言いました子ども対象の講座辺りはですね、夏休みの宿題講座と題しまして公民館クラブをやっておられる指導者、それからクラブ員のみなさん方に講師になっていただきまして子ども対象の教室を開催しております。先ほど申しました料理教室、習字教室、あるいは科学教室とかですね、これらは公民館クラブの社会貢献のひとつとして取り組んでいただいております。みなさん方、講師あるいはクラブ員のみなさん方も非常に協力的にやっております。

また、ふれあいまつり、あるいはこれからどんど焼きも1月には実施していきますけれども、これらの地域行事でございます。ふるさと（づくり）協議会あたりを中心にした事業でございますけれども、これら小学生の参加というのは非常に多いんですけれども、中学生がまだまだ参加して下さっていない。中学生を公民館に呼び寄せるにはどうしたらいいか、この辺もいま課題として考えておるところでございます。以上でございます。

増本厚陽公民館主事

失礼します。厚陽公民館です。先ほども申し上げましたが本日は館長の小野山が事業により出席が叶いません。誠に恐縮ではございますが、私主事の増本が代わりにご報告させていただきます。

厚陽地区ですけれども、千々松会長をはじめとして地域の団体及び地区のみなさまのご尽力により地域活動が非常に盛んでございます。運動会や夏祭りに続きまして資料には記載できておりませんが先般の11月の3日ですかね、文化祭を終えたところです。おかげを持ちまして、当初予定をしておりました主催講座、季節の諸行事については滞りなく進んでおります。メニューにつきましては、例年通りの実施でございますのでお手元の資料よりお読み取りください。

厚陽といえば、緑と花の推進協議会ですけれども、今年も学校や地域のみなさんのご協力のおかげで無事に苗の配布を終えることができました。会員の高齢化に加え、気候の影響で生育状況がいまひとつという状況のなかではございましたけれども、無事にみなさまにお届けすることができまして一同安心しているところ

でございます。

また、学校支援地域本部事業の事務局である当館ですが、今年度も学校との係わりを強く意識しております。洋裁、書道、茶道といった公民館クラブ生による学習支援、地域ボランティアによる読み聞かせや環境整備はもちろんですが、主催講座であります切り絵教室を学校図書室で行ったり、学校の文化祭に公民館の利用者を派遣したりするなど、まだまだ試験的ではございますが新しい取り組みも行っております。これらの企画は、館長とコーディネーターを中心に教員、地域の方に声をかけながら公民館や学校で打ち合わせをしております。私たちが支援に入る際には、この打ち合わせを大切にしております、なるべくコーディネーターさんと公民館職員が同席するようにしています。情報の共有という点はもちろんですが、打ち合わせから振り返りまで地域のみなさん、支援者の方にとって安心感のある雰囲気を作るように努めております。

厚陽は、コーディネーターが現職のPTAということもあり、学校の様子を保護者目線でよく教えていただけます。支援に当たっての参考となるとともにそうした方々と一緒に考え、動くことで保護者世代を巻き込むきっかけになればと思っております。小中連携校という特性を活かして、小学生、中学生はもちろんですが、けれども多様な世代を巻き込んでいけるよう講座も含めて検討していく必要があろうと思っております。厚陽からは以上でございます。

佐々木埴生公民館長

最後になりました、埴生公民館でございます。細かい事業報告は置いておいて、私はこのプロジェクトシートの1番最後に掲載されております「公民館を利用した中学生の夏休み朝学習」という学校力の向上と公民館の係わりについて事例をひとつだけお話させていただけたらと思います。今年の8月初旬、大変暑い最中でございますが埴生中の生徒約108名が埴生公民館の冷房の効いた講堂と会議室に分かれて朝の学習を8時半から1時間ばかり行いました。指導者は埴生中校区となります埴生中、それから埴生小それから津布田小の3校の先生方に加えて、学習支援ボランティア、地域コーディネーター、約30名弱くらいの方が手分けをして子どもの学習を見ていただきました。私は子どもたちの学習の姿を見ましたが大変熱心に、ちょっと噂では授業態度がと聞いておりましたが、とても熱心に勉強しておりました。それから、特に印象深かったのはその1時間程度の勉強が終わって階段を降りて来る子どもたちの表情がとてもすっきりした表情で、たぶんこの後部活に行くだろうと思いたりますがとてもすっきりした表情をしていたのが印象的でした。これを実現できたのは埴生中学校の呼びかけにはなるんですが、たまたま公民館と中学校がすぐ側にあったこと、それから108名という人数がちょうど公民館の受け入れの人数に叶っていたというようなこと、そういった

ことがよかったことだと思うのですが、1時間の学習ではあったのですがただ5時間の内容という以上の成果があったのではないかということで、このような公民館の利用の仕方もあるのかなということでご紹介をさせていただきます。以上です。

岡本会長

はい。今、28年度の公民館事業実施報告関係について各公民館の方から説明がありました。委員の皆さん方何かご質問がございますか。(石川委員挙手) はい、石川さんどうぞ。

石川委員

公民館長にちょっとお聞きしたいんですけど、先ほど教育長が学校、家庭、地域のですね、コーディネーター役としてですね、公民館が中心になっていくと。まあ、やりたいということなんでしょうけども、実態的にですね、公民館長(が)学校の先生をご経験された方がたくさんいらっしゃるかと思いますけれども実際に公民館長としてですね、地域と学校とですね、一緒にコーディネートできますか。つまり、私が申し上げたいのは学校の先生は教育に関して2本の大きな法律があるんですけども、学校教育法と更には学校教育以外のすべての社会教育、社会教育法、この2本の大きな柱があってですね、公民館は社会教育法の中の範疇ですよ。その館長さん方がですね、本当に地域と学校のコーディネーター役ができますか。そこら辺の考え方をお聞かせいただきたいんですけど。学校教育課としてどういうふうにそこら辺をお考えですか。

下瀬学校教育課主幹

すみません、失礼します。今本当に(公民館長に)できるかっていうご質問だと思いますが、学校にはですね、教員ですが地域コーディネーターという役の教員がおります。学校の要望とかを地域コーディネーターの学校教員が教員として地域の方にお願ひする。そのときにつなぎ役として、いま地域教育ネットの方で地域の方のコーディネーターさんがいらっしゃいます。それでいま学校支援の方、あるいは地域貢献の方をされておりますが公民館の館長さんにはですね、第2コーディネーターとして地域の方、あるいは学校の困っているところがどういうところにあるかを理解してもらって一緒になってやっていただくということで、全部公民館の館長さんにお願ひしていくということではなくて、地域コーディネーターと共にお願いしていくということになっております。以上でございます。

石川委員

下瀬さん、この間行かれたかどうかわかりませんが、山口市で公民館会議というのが、全国公民館会議と（というのが開かれました）。実質的には中四国の方が中心だったと思います参加されて（いまして）、そのときに事例発表をある公民館の方がされましたが、いま求めようとするのと全然（違って）ですね、それをそのまま例えば山陽小野田市に持ってきて対応できるような話じゃないですよ、とても。そして、公民館長さんもお存知だと思いますが、各委員さんもお存知だと思うんですけど小学校と中学校のですね、コミュニティでどういう指導をされているのか知りませんが、まったく温度差があって小学校の方は少なくともコミュニティに対してすごく参加意識もあるし、子どもたちにも指導がよく行き届いている。中学になったらまるで全然行き届いていない。そこを同じようにですね、学校教育課としてどのように中学校と小学校に指導されていらっしゃるのですか。これからですね、新学習要領、アクティブ・ラーニングというのがですね、もう始まるんでしょう。新学習指導要領の中にまとめの中にそういうことがうたわれているんでしょう。具体的に実現できますか。具体的な方策があったら言ってください。それを公民館長にですね、コーディネーターをしてもらうとかそんな生やさしいものでできますか。中学校で受け入れができていますか、それだけ。意識としてですよ、認識として。お答えください、それを。

下瀬学校教育課主幹

失礼します。小学校の方はですね、教育課程の方に地域の方が入ってくるというのが大変馴染みやすく、例えば生活科の学習でお年寄りと一緒に遊ぶ、昔の遊びをしていくとかということが教育課程上に割りと馴染みやすいということがあります。中学校の方には、教育課程上少し高度な知識等を教えるということもありまして少し馴染みが薄いということと、中学校の部活動等の子どもの生活が少し多忙であるということもありますが、教員も得てして小学校の方が割りと地域の方の学校支援については理解が得やすいと。大変大きなメリットも受けておりますので小学生が地域に出て行ったりすることへの応援というのがすいぶんあるように思います。中学校の教員については、いろんな多忙感もあると思いますがまだまだ認識としては不十分であろうと思っております。今後は学校教育課としても中学校教員が積極的に地域貢献、あるいは学校支援に地域のみなさんと一緒にやっていこうという思いをしっかりと持つようにですね、指導はしていきたいと思っております。ただ、なかなか時間的な制約もあり難しい面もございます。これがただ、今の現状でございます。

石川委員

いや、そういう現状でしたら理想的なものを求めるより、まず意識改革、中学校の学校の先生の意識改革をしないと、地域といくら一体になろうと思っても融合しませんよ。小学校ができるのに中学校が忙しいからできないということはないでしょう。同じ先生だから（小学校と）一緒でしょう、教育委員会はどのような判断をしているのですか、このことを。例えば、我々が地域行事に参画してくださいと中学校にお願いするでしょう、お願いしたときには「いや、学校からは参画ってことは指導、言えないので生徒会に言ってください。」とその程度（の返事）ですよ。コミュニティスクールとていうのはどういうものか、どうのご指導されてるのですか、普段。校長会ではどうのご指導をしているのですか。

和西中央公民館長

ちょっといいですか。すみません、この公民館長さんをこの地域、学校、家庭の連携に第2コーディネーターというサポート役で入ってもらおうというのは社会教育課のほうで考えました。学校教育課とももちろん話たんですが、なぜこういうことをしなきゃいけないか考えていたかということ、コミュニティスクールが100%になりましてコーディネーターさんていらっしゃるんですけど、どうしても学校寄りだったんですね。今、なぜ公民館の館長さんはじめ公民館の職員をこれに関与していかなくちゃいけないと思ったかということと地域側に軸足を置く人が必要と僕が考えたんです。僕とってはいけないですけど、社会教育課が考えたんです。学校に軸足を置くコーディネーターと地域側に軸足を置く公民館、これが学社融合と盛んに今使われていますけれど本当に進めていく上では、両方に軸足を置いた人が居なければこれから先地域づくりの方になかなか結び付いていかないなっていう考えがあったからこのような公民館長さんにいままでとは違った役割とこのをお願いした次第です。

コミュニティスクールが100%になったということで、山口県がとても注目されています、全国11%の中で。でも、実際身が伴ってるかと言われると学校教育課の方いらっしゃいますけれど、やはりなかなか難しいところがあります。それはなぜかと言われると、学校が支援されればいいんじゃないかって考えてらっしゃる先生方がだんだん少なくなってきていますけれども、まだいらっしゃるからだと思います。そういう先生方に対して社会教育の側で、公民館が軸足を置いて学校側に対して地域づくりのほうも一緒にやってみようっていう体制を作りたいって思ったからこのような第2コーディネーターというような、名前はちょっと大袈裟なんですけれど、この役割を負わせているところです。

なかなか人の心って変わらないところもありますけれど、まずはちょっと100%になったからこそ社会教育の側でスタートさせたいなという思いがあつてこ

のようなことをさせていただいた次第です。

石川委員

和西課長は、崇高なお考えですね、チャレンジとしてですね、数年前に公民館運営協議会も地域の方ですね、公民館運営会議のメンバーも集めていただいて、地域の方で公民館運営協議会を開催しようということが決まっていたと思うんですよ。私共の高千帆校区では藤田自治協の会長さんを会長としてですね発足したんですけども、すぐまた変わってですね、今度は公民館長を就けると。ということはですね、その思想的と考え方についてですね、地域で本当に僕が危惧してるのは公民館長が、特に学校の先生がですね公民館長になられて、自分のところの出身母体じゃないですか。それを例えば小学校なら言いやすいかもしれないが中学校の校長先生にやね、「こうこうこうですからコミュニティに参加してください」ってもっと言いにくいと思いますよ。

和西中央公民館長

いや、その言いにくいところを、校長先生を退職された方もいらっしゃると思うので、つなぎ役として、(学校と地域を) もっともつとつないでもらいたいという思いから、このような委託館制度をやめたという経緯もあるんですよ。申し訳ないですけど、学校教育課の方でなくて、社会教育課の方でこの公民館長さんに第2コーディネーターっていうのを考えたっていうのはお伝えしたいなというのがありまして発言させていただきました。

吉川委員

ちょっといいですか。

岡本会長

はい。

吉川委員

その、第2コーディネーターのことで有帆公民館から報告のときにちらっと話が出たので興味があつてメモしてたんですけど、石川さんの言われるその第2コーディネーターは実際にもうそのような活動をされてる方もいらっしゃるの、有帆公民館の館長さんのほうから第2コーディネーターとしてどういうことをおやりになっているか体験談を聞いた方がよく分かるのではないかと思います。

それから、石川さんの発言で中学校の意識が低いというお話がございましたが少なくともそれは地元の方かもわかりませんが、私は竜王中学校と関係があるん

ですけど、竜王中学校の校長さんはじめ大変意識の高いところでありまして、お互いにいろいろ利用し合ってWin-Winの形でやってるところでありますので、必ずしもそういうところだけではないということも付け加えたいと思います。

石川委員

付け加えておきますけどね、いま小野田中学にしても竜王中学にしてもおそらく（うまくいっているのでしょうか）、私は高千帆校区ですから。

それともうひとつはですね、厚陽は小中学校一貫校なんですよ。この厚陽に関してはですね、その地域性がすごいつながりができていると思うんです。その辺は私もいろんな場所に参画してですね、肅々分かります。ただ、私どもが何か地域のお願いに（中学校に）行ったときにですね、そういうことで例えば言葉としてですよ、「我々学校としては地域参画っていうのは指導できないけど」、学校としてはですよ、「もしお願いされるんだったら生徒会に言ってくれ」と。これの認識を僕は、現実にいただいているものですから、そこら辺の教育委員会としてどういう指導の仕方されているのかっていうことです。そういうことなのですよ。そういう言葉が出ること自体がおかしいでしょう。

山下有帆公民館長

有帆公民館の山下です。先ほどのご質問ですけど、一応「地域力・学校力・家庭力向上プロジェクト！」のシートの方に有帆公民館は第2コーディネーターの役の推進ということで記載させていただいています。まずは、有帆小学校がこの4月からコミュニティスクールとなりまして、5月、6月くらいに公民館の館長のほうも第2コーディネーター役をとということで社会教育課から話がありまして、それを持って小学校の方にサポート的な形でコーディネーターをよければやりましようかという話をしましたところ是非ということで始まったわけですよ。ですから、それは7月以降ですね。ですから、まだこれはといったことはないのですけれど、今やっているのは毎月1回、もともと有帆小学校の地域支援本部というのがあります。その地域コーディネーターさんが毎月1回学校との打ち合わせをいたします。そのときに一緒に同席をして内容を聞いたり、打ち合わせと言いますか、（それ）をやっております。その中で意見を言ったりもしておりますけど、成果として特に上がったなというのは正直言ってありませんが、公民館ということでいろんなクラブがありますので、そういったクラブの活動の中でいろんな作品とかがあります。そういうのをですね、学校の方に展示をしていただければという話は今（学校と）しております。そういったことで少なくともクラブの方は、そちらのほうに足を運んだりとかになるでしょうし、それともうひとつコミュニティルームというのがどうしても各小学校、中学校とも作っておられるところも多いと

思うんですけど、いろんな事業をするのもいいと思うんですけど、コミュニティーがまずは活用されないと地域、学校が一体にならないんじゃないかなというのがございます。今の展示も学校長からの話もあったんですけど、コミュニティーにもそういったものの展示をしたいということも言われましたので。今これは計画で、一応クラブの方にも了承を得ていますので今年度中には展示をしてまた、地域の方にもそういったことをお知らせして是非小学校にも。まあ、私は小学校のコーディネーターですけど小学校の方にも足を運んでいただければと思います。

いずれにしても、私自身コーディネーターとしても何もできていないんですけど、どこまでやればいいのか、答えというのはあつて無いと私自身思っておりますので、ただじっくりと足を据えて少しずつ前に進めばいいのかなと思っております。以上でございます。

岡本会長

ありがとうございました。石川さんのお話もよくわかりますしですね、今説明を受けた教育委員会のほうからの話も聞けば分からないこともないけど。私も今、地域コーディネーターというのは、私のところの館長から聞いた覚えもあるんですけど、どういう役割を果たしているのかはわかりません。今聞いてそうですかという感じです。先ほどの埴生の館長のおっしゃった公民館に中学生に来ていただいてですね、学校支援をする委員の方々にお手伝いをいただいて非常に評判が良かったというようなお話しがありました。あそこの公民館にそれだけの人数が入れるのかなというのをちょっと思ったのですがね、いいアイデアだろうとは思いますがね。ですからそういう接触はされる方がいいかなと思いますね。そういった感想でした。ほかに意見ございますか、委員の方。(平中委員挙手) はい。

平中委員

先ほどから中学校の意識が希薄っていう話が出て、小学校に比べたら希薄っていう意見が出ております。実は私ども先ほど(江中厚狭公民)館長の方から説明があったと思いますが、今回1月1日初日を迎える会に一応厚狭中学校だけありますけど参加を募っております。というのも、受験生を対象に絞っております。コミュニティースクールの担当の方はすごく今本気で、それも1年がかりの話で、ここには松浦先生も来ておられますけど、1年がかりで学校委員会のほうで話が出て、いよいよ今回コミュニティースクールの担当の方から是非今回参画がしたいということがございまして、20名程度を募集して、せっかく1月1日朝来てもらうのだから、初日の会に朝6時くらいから来てもらうんだから何かしないとイケない。我々のほうで必勝合格祈願のハチマキを先着20名に、それはお宮で祈願し

たものですよ。それを準備してやるようにしております。式の中で受験生の代表に決意発表と言いますか、その辺のこともってもらったらいんじゃないかなと思っています。この初日の会も例年中学生も10人前後は参加しているんですよ。全体で100人くらいいますけど約1割くらいは中学生が来ているということで。また、これを契機に中学生の参加が3年生、受験生だけじゃなし、1、2年生の参加もあればなあと思っております。せっかく初日の会に初日を見に来るだけじゃおもしろくないから、今年は中学生が来て「僕達は何ができるかな」をよく選択してもらって次の段階に進んでいきたいと思っております。また、来年度以降は中学の生徒はいろいろな役にはめられたらなあと思っておりますけれど、これもやってみないとわかりませんが、そういうことを計画しております。以上であります。

岡本会長

今各公民館から事業実施の報告についてはこれで終わりたいと思っております。今委員の皆さんの発言についてはですね、是非教育委員会の方もお考えいただきたいと思っております。それでは次にですね、残りの意見交換ということで公民館と「地域力・学校力・家庭力向上プロジェクト！」について説明をお願いします。

和西中央公民館長

はい。既にこの議題についての協議もいただいておりますが、説明も簡単にさせていただきます。社会教育の指針というのをお付けしておるんですが資料6です。先ほど来お話ししております公民館の役割、社会教育主事の役割というのを資料6の4ページに絵をして付けさせていただいております。学校と家庭と地域を連携していく上で公民館、それから社会教育主事が社会教育のサイド、地域づくりのサイドで支えていこうというのをこの社会教育の指針の中で明確に打ち出しております。先ほども話しましたがコミュニティスクールが100%になったときだからこそ社会教育のサイドでもしっかりした基盤づくりが必要ということでこのようなことを指針としてうたわさせていただいております。理念としてうたうだけではなくて先ほどからちょっとずつ出てきておるんですが今日別表でお配りしたプロジェクトシートというのを、これは館長さんから、館長会議でこの第2コーディネーターとして係わっていただけますかって、館長会議でお話をした後、じゃあどういう風に進めていったらいいかなというのを考えまして、見える化ですね、事業の見える化をしたいと思しましてこのようなプロジェクトシートを作らせていただいております。これ、ものすごくいっぱいあるんですけど今日は主だったというか特色のあるものを持って来てお配りしておる次第です。これを館長会議などで共有いたしましてちょっとずつ進めていく上での参考ということにしていきたいと考えておるところなんですけど、左上に事業の名前がありまして

1 ページ目でしたらもとやまメダカの学校ということでタブレットを使って、で、いつどこでやったっていうのをまず書きまして、対象が小学生と保護者と先生、活動のところなんですけれど「学校 d e 公民館プロジェクト！」と言いまして、公民館の事業を学校で行うことがこの「学校 d e 公民館プロジェクト！」です。あと、「学校 d e 会議をしようプロジェクト」はコミュニティルームというのが各学校できておりますのでそこで会議をしたりするのを「学校 d e 会議をしようプロジェクト」となっております。あと、「ふるさと学習」というのは、ふるさと文化遺産っていう社会教育がやっているものなんですけど、これを活用して地域だけではなく学校とも一緒にお勉強できたらなあということで「ふるさと学習」。それから先ほどちょっとありましてけれど学校の廊下で地域、公民館だよりとかを貼ったりなどされる活動 P R を進めていきたいと思いますというのが「活動 P R」ですね。それから「公民館クラブ サテライト活動」というのは公民館クラブが学校に行って授業のサポートなどをするのがこのサテライト活動です。それから「サテライト主催講座」というのは、公民館じゃなくて学校で主催講座ができたらいかなあということで、このような主な活動分けをして皆さん、館長さんが係わっていった何かできたらこういうのを作ってきて、またみんなで共有していこうというのをやっておるところです。課題として考えているところは、関係者というところなんですけどここで公民館長と学校と本山だったらその他ってあると思うんですけども、ここでコーディネーターさんが入ってきてやはり情報共有を一緒にしながら進めていけばいいのかなというのを考えておるところです。今日、お配りした資料本当にいろいろな多様なことが既に始まっておりまして、2 ページ目は赤崎で先ほど木原館長が言いましたけれど校区の子ども会のお母さん方とのお力をいただきながら学校に入っていくという形、それから3 ページ目は須恵で公民館クラブの人たちが夏休みのお勉強をサポートしてるよということ。これは先ほど埴生のほうでもありました。それから小野田公民館、4 ページ目は小野田公民館のタブレット教室を学校でやりますということ。それから5 ページが、これがとてもすばらしい試みだなと思うのが学校で地域の方と児童と一緒にふるさとを学ぶということ。それを会場が学校でやるというすばらしい取り組みだなあというふうに思っております。給食も一緒に食べて帰ろうということでこのようなきっかけづくりが非常に大切なのかなあというふうに思っております。それから、もう1 個高泊ですけど先ほどお話ありましたが職場体験のコーディネートが館長さんが入られてやられたということ。それから7 ページでは、高千帆の学習の発表の場を子どもたちに設けるといような取り組み。それから、8 ページは有帆での先ほど山下館長が第2 コーディネーターとして会議に参加して情報共有に努めているということですね。9 ページについては、厚狭中学校で今年の5 月にありました体力測定に地域のひとと一緒に入ろうという取り組みですね。10 ページは出合公民館での試

み、11ページがこれは厚陽小中学校の文化祭に公民館の学習者が発表したりするような取り組みですね。すみません、1個1個(説明をして)いくのもあれですが、このようなプロジェクトシートを設けて、とりあえず始まったばかりですので、かといって理念だけではいけないなと思ひまして、そのコーディネーターさんが学校と地域をいままでつないでいたんですけども、もう1個公民館長さんがもうひとつの柱でつないでこの公民館長さんとコーディネーターさんがこう情報共有することで地域の方々がたくさん参加できたら、(して)いけたらいいなあという思いもありますし、もっと大きいのは先ほど申しましたとおり国のほうも支援じゃなくて協働ということを言い始めています。今まで学校支援を進めましようと言ってきたんですけど、そうではなくて学校も地域も協働して地域づくりに取り組んでいきたいと思いますというようなことも言っておるところです。ですから、公民館のほうを地域づくりの拠点と言うか軸足を置いたところがひとつ要る、ひとつ要ると思ったんですけど、もう公民館しかあり得ないという思いがありましたので、このような公民館長さんに今年新たにこの役割をお願いして、ちょっとずつですけど学校とのつなぎ役等も進めていただいているというところなんです。ただし、すみません資料7なんですけど、すみません戻りますがこれが、山口県がコミュニティスクール100%になった山口県が言っているところなんです。赤い大きい枠の下なんですけど、コミュニティスクールが核となり、学校・家庭・地域の連携・協働による独自の「地域協育ネット」を活かし、地域ぐるみで教育や地域貢献に関する様々な取組を推進し、地域教育力を向上させ、地域コミュニティを活性化するというふうに山口県は県教らしく言っているんですけど、山陽小野田市はもう先ほどから石川委員さんと言われておられますけれども学校教育も社会教育もボーダーレスで教育力を上げていきたいという思いがあります。だから、山口県っていうのは、どうしてもそのコミスク100%っていうふうにこだわりがありますので学校のほうに軸足を置いているんです。ですけど、どうしても社会教育の側が一生懸命頑張らないとこの地域教育力というのは、とてもじゃない進まないっていう思いが。私、長年携わってきて感じているところです。先日全国大会、学社融合の全国大会に行って来たんですけど、どうしてもその学校寄りの発言をされる方もいらっしゃるしまして、何か納得いかないというか、学社融合と言いつつ学校主導でまだ山口県というのは進んでいるところがあるのかなというのは個人的には感じるし、社会教育に携わっている我々が非常にいつも感じるところですけど、そうは言われてられないので公民館をはじめ社会教育の側で基盤というか、ベースをしっかり作っていききたいというふうに感じておるところです。

おかげさまを持ちまして資料8ですけど、学校支援地域本部事業、まあ支援じゃなくて協働と言っておるんですけど山陽小野田市はボランティアの方が1000人、登録を超えておりまして、この方々が述べ26,000人、数字じゃないんですけど

れど、年間延べ26,000人の方々が係わっていただいております。人口が64,000人という中で本当に素晴らしい方々が市民としていらっしゃるなど感じる次第です。

そして資料9なんですけれど、これは松浦コンダクターの方が意識調査として付けられたものです。コミュニティスクールの意識調査というところで、1個1個読むのはあれなんですけど、山口県平均が1番右隅にある中でどこの中学校区も軒並み倍以上の数字が出ております。これ、なぜかというのは分析をする必要もあるかと思うのですが、ひとつあるのはやはり学校支援地域本部事業を山陽小野田市の場合は、平成20年から始めて、23年に全校区導入し地域の方々が厚い、優しい気持ちで学校に係わってきていただいている。そのベースがあってこのコミュニティスクールが入ってきたからこのような数字になったのではないのかなということが言えるところです。社会教育と学校教育の垣根をボーダーレスで、今から境目なしで教育力っていうのを上げていかなきゃいけないってのは感じておるところですが、何も始まったばかりでいろんな試行錯誤をいままながら少しずつ進めているところです。皆様方のご意見とかをいただきながらまた進めていければというふうに思います。長くなりましたが以上です。

石川委員

会長いいですか、ちょっと。

岡本会長

はい、どうぞ。

石川委員

和西課長（のお考え）は大変素晴らしいことですし、人も素晴らしいし、すばらしくアクティブで社会教育課長として十二分のご活躍をいただいているというのはもう分かりきっているんですけど、ただですね、学校教育で1番問題はですね、保護者のみなさま方がですね、今まで地域力といって地域の皆様方がお手伝いしていただかなくても保護者がですね、今まで協力的でした部分がずっとある。我々が少なくともPTAの会長をさせていただいたときはですね、保護者が学校側とタイアップしながら協力しながらですね、今皆様方がお願いされているような地域に求められることはですねほとんど保護者の方と学校がクリアできていた。つまり、保護者の皆様方の考え方、或いは方針が少なくとももう欠落してきている。ですから地域社会に求める。地域社会に求めていただくことも結構なことだろうと思うんですけど、ただ、今地域社会で頑張ってる方の方のほとんどがもう私を含めて高齢化しているんですよ。じゃあ、あと5年先、10年先に今のような

形が継続していくかどうかというのは大変不安な部分があるし、おそらくできないと思いますよ。そうなったときに保護者の皆様の意識改革を同時に、コミュニティスクールと同時にですね、保護者の皆様方の意識改革をしていかないと、途中で潰れてしまうんじゃないかと思います。いくら文部省とか、教育委員会がそうやって指導されてもですねそのようにならないと思いますよ。先生方の意識もですね、いままで学校教育法ですっと染み付いているものですね、いくらアクティブラーニングっていてもその意識が先生方にもありますか。個人的にお話してもそんな意識は全然僕は感じません。小学校の先生には感じます。

和西中央公民館長

あの、すみません。家庭教育のお話をさせていただきます。ちょっと説明をとばしたんですが、実は昨年、資料5でお付けしましたけれど山陽小野田市教育大綱という市長と教育委員さんが共に話す場を設けましてそこで山陽小野田市でこうゆうふうに教育を進めましょうというのを1年かけて決めました。6ページにありますがそこに学校・家庭・地域の絆を育むとともに家庭教育支援の充実を図るというふうに特出しで家庭教育の支援について基本目標として掲げております。石川委員さんの言われるように、家庭教育っていうのは1番届けなきゃいけない人には届かない。なかなかその教育という言葉が付きつつもどのようにその家庭が変容していくか、そこまでその変容しなきゃいけない家庭にどのように届けていくかっていうのが山陽小野田市もそうですし、津々浦々日本全国のこの携わっている人間が苦悩しておるところです。先日、安倍政権が、安倍政権って言っちゃいけないんですが家庭教育について法制化をしようっていう動きまででてきておるといのが、やはりその日本でこの家庭教育というものに対する危機感を感じているその表れなのかなあというふうに思っておるところです。家庭教育支援の充実を図るとは言いつつ、本当に模索しております。かといって、その家庭が見られないところを地域でお願いしますと言われてたって、地域の皆さんもそれ以前に家庭じゃないのかって思いがあるのも当然だと思います。今の委員さんのお言葉、受け止めつつも行き着くところはやはりまず福祉との連携を進めていかなければいけないのかなあというところまでは掴んでおるところです。これから家庭教育については、しっかりと対応していきたいと思っております。具体的な施策が何かいるのかなと思っておるところです。

岡本会長

今は意見交換の場で公民館の関係と、さっき課長がおっしゃった件ですね。地域の人材を利用してそして学校支援をやるというお話なんです、今石川さんがおっしゃったこととですね、石川さんは10年後の先を考えていらっしゃってです

ね、私はそこまで考えません。そのとき生きているか分からない。今75歳ですからもう5年すると絶対どこかに行っているんじゃないかと思っておりますが、確かに石川さんのおっしゃっていることは将来的には必ず出てくる問題だし、なかなか（解決）出来かねる問題であろうと（思います）。ともあれ今それを心配してもしょうがないということなんでですね、今おっしゃったように今ある人材でですね、助け合っていないとしょうがないなあというふうにちょっと思いますが。みなさん方はご意見ありますか、今のお話の中で。高橋さんご発言、何かありますか。

高橋委員

あるんですが、ちょっと後にしようと思ったんですけど。

岡本会長

早く言ってください。早く終わりますので。

高橋委員

いいですか。

岡本会長

どうぞ。

高橋委員

ちょっと内容は変わるんですが、公民館の役割というのは2つあると思うんですね。それをこれからの公民館のあり方についてというのが24年に出ています。その中に2つあってですね、1つはですね地域住民の活動拠点となっておりますね。もう1つが学習拠点と。で、学習拠点の方はですね、これは人づくりですか、その辺でずっと進んできてですね、学校支援とか取り込んで進んでおりますが、もうひとつの方、活動拠点ですね、集合場所。この辺でですね、これよそは分かりませんが実はいろいろな各種団体ということでふるさと（づくり協議会）とかいろいろあるんですが、そのふるさと（づくり協議会）のですね事務局が規約上はですね公民館に置くと書いてあるんです。しかし、公民館のどこに置かわからないのですね。それぞれ集まって会議等開くのですが、いずれも空いた時を見てですね人数も3人とか10人とかありますけどね、空いた時に申請をして（会議を）やれということだったんですが、今は人が集まってもですね事務をするっていうんですかね、事務的な話をするとところがないんです。ないんですね。それをきちんとですね事務所をここにさせるっていうことで誰でも自由に入出入りする

ようなですね部屋が欲しいということです。専用って言うんですかね、それは無理かもしれませんが、兼用でですねどこかの部屋でですね使わせてもらうというようなことをですね、やってもらいたいんです。小さいことですが、いろいろな備品の問題も館長とは話すんですが、何かこう、教育委員会の方に相談したら否定的な回答しか返ってきてないようなんですね、全てが。どこまで言ったかそこはよくわかりませんがね。それでとにかく運営協議会っていうのが地元にありますんでね、そこで検討よくして、そして定めてもそういうものを作らせてくれということです。人が（公民館に）集まる集まるって言っても、人が集まる場所がないんですね。どうもちょっと考えてみますと有帆の公民館は最初に来ておるんです。ですから調理室の倉庫がないとか何か急いで設計して、急いで作ったそんな感じですね。ということで部屋が特に少ないんです。人が集まらない公民館なんて意味がないですからね。そういう場所を作って、今、外郭団体とはふるさと（づくり協議会）とか地区社協、自治協、セーフティネットとかですね、防災面も相当入ってきてます、今。ですからそういう部屋を、事務所をぜひ作らせてもらいたい。それが地元の判断でいいかどうかということですね。お願いしたいと思います。

岡本会長

今答えが出ますか。

和西中央公民館長

あの、ご意見承りますので中で話を。

岡本会長

わかりました。まあ、どこの公民館もそうでしょうね、やっぱり必要な面があるんじゃないかと思います。また、それは機会があれば館としての要望という形でですね、意見を出したほうがいいんじゃないかと思いますがね。それを私が書かさせていただいてもいいですか。

（「お願いします。」の声あり）

高橋さん、よろしゅうございますか。

高橋委員

はい、よろしいです。

岡本会長

藤田さん何か一言。

藤田委員

私はありません。

岡本会長

ないですか。平野さん。

平野委員

ちょっとですね、石川さんの話は私にはちょっと難しすぎてですね、なかなかあれなんですけども。まずはですね現在やっていることを各コミュニティで私も会議に出るんですけども決めたことをやはり実行していくと。それからまた反省点が出てですね、それからまた精査していくということが大事じゃないかと私自身は思っています。まずはやってみることということでもいいんじゃないかなというふうに思っています。

岡本会長

大本さん。

大本委員

私も竜王中学の運営協議会のメンバーなんですが、先日敬老会のあった後ですかね、日赤の老健の「あんじゅ」に1輪花を（入居者の）皆さんに届けたいということで赤崎の館長とも相談して中学生が良いだろうということで、中学に一応申し込んだんです。ちょうど昼前の11時過ぎが良いだろうということで中学の校長先生にお願いしました。授業の時間的な都合があるとのことで少し考えさせてくれとのことでしたが、授業の時間をちょっと変えてもらってですね学生10人ばかりで1輪花をあんじゅの患者さんに1本ずつ届けたんですよ。非常にあんじゅのほうは喜んでもらえまして、中学生もいい勉強になったんじゃないかと思えます。こういうことで竜王中学校とは、さっき吉川さんがおっしゃいました。結構いい状態になっておると思えます。以上です。

岡本会長

平野さん、もう発言されてからいいですかね。じゃあ水田さん。

水田委員

私もさっき平野さんが言ったように1歩1歩進んでいかないとしょうがないと思うんです。始めから大きなことを望んでも無理だと思いますので。1歩1歩、2

歩後退するかもわかりませんが、前を進んでいくしかないんじゃないかと思えます。以上です。

平中委員

はい。2月の8日の日に厚狭地区の複合施設が開館しました。今回は厚狭公民館、総合事務所、図書館、保健センター、アリーナと5つも一緒になっております。9ヶ月一応経過しております。館長と河口職員2人が毎日汗びっしょりになって仕事をしておられます。みなさん方は、そういう姿を見たことがありますか。私は何回も要望しましたよ。1.5とか人間が0.5とか1.5とかそういう人事がありますか。何を考えているのですかあなた方は。今でも行って仕事を手伝ってあげなさい。今日も行ったらね、毎日ですよこれは。今日も行ったときに老人の何かでどこ行ったらいいですか。総合事務所に寄られたら1番最初に公民館があるから絶対立ち寄られますよね。図書館はどこありますかとか、保健センターはどこありますかとか、何はどこありますかとか。今日は何か老健の何とかと言って来られた。それで、2番とか3番のどこに行ったらいいと案内をしていた。その2番も3番もどこにあるかをお客さんはわかっていない。その辺で河口さんはいちいちそこまで連れて行かないといけない。そうなったら公民館の業務から抜けますよね。折角やっていたら人が来て、あれはどこですか、公民館はどこ行ったらいいですかとか、どこはどこですかとか。やっぱり人事をもっと真剣になって考えてもらわないとですよ。その辺のことを教育長が今日いらっしゃるなら言おうと思っていたけど。いらっしゃらないからまた個人的に行きますけどね、それは。まあ、その辺のことをもっと、もう9ヶ月も経っているのだから、その辺のことはね、重々皆さん方も忙しいって絶対わかっているはず。それを河口さんはすごく人がいいから河口さんは（文句を）言わない。僕なら1日ももちませんよ、あの仕事は。すごく過激な仕事です。もっと職員をかわいがってください。いいですか、尾山部長。よろしくお願いします。

岡本会長

大森さん、（マイクを）渡して。

大森委員

私はいろんな行事等には参加するというか、厚狭中学校、出合小学校それぞれいろいろな学校の方からの支援、学校の方に支援をお願いしたら快く引き受けてくれたりするので、私たちは割りとは何と言いますか幸せかなあと今は思っていますが、これから先いろいろなことでお願いすることが多いかと思いますがそれをいまでできるだけ応えていただければ幸せだと思います。以上でございます。

川口委員

私は学校の関係でございまして、石川さんが言われた教職員の意識の方では非常に耳が痛い気がしております。教職員にもコミスク、出合小学校は今年から始まりました。その辺の意識改革と言いますか、意識の希薄さというのは感じながら少しずつ前進しているところです。公民館との住み分けと言いますか、協働しながらお互いの立場を尊重しながら進めていくという。今、能勢館長さんもいらっしゃるし、運営協議会の大森さんもここにいらっしゃるんですが、しっかりお話をしながら意識をお互いが同じベクトルに向くような形で進めていけたらというふうに今考えております。学校の関係者としたら本当にいままでの支援をしていただくという意識が非常に高く、貢献をするという意識が非常に低いのかなというのを非常に感じています。ですから、一緒に地域の方とボランティアをしたり、地域の方と何かをすることで地域の方が自分たちにしてくれたことを刷り込まれて、今度は成長したときに地域でそれをまた同じようにやっていける、そういう人間を作っていけたらというふうに考えております。本当にお世話になります、お願いします。

石川委員

あの、最後ですから短く言います。このコミュニティアンケートの設問はどなたが考えられたんですか。質問内容を。

和西中央公民館長

県。

石川委員

県。県自体が間違っているのではないですか。地域貢献において学校を良くすることは地域を良くすることに繋がるというのは反対ではないですか。地域を良くすることが学校を良くすることに繋がるのではないですか。そういう認識こそが県が間違っているのではないですか。これを学校でアンケートを取ることで自体を注意しないこと自体が間違っているのではないですか。学校が中心ですか、そうじゃないでしょう。地域を良くすることは学校も良くなることで、コミュニティスクールの原点でしょう。これを保護者が見たときにはやっぱり、地域より学校のほうがえらいのかってみんな思いますよ。

高橋委員

会長、ちょっといいですか。

岡本会長

はい、どうぞ。

藤田委員

私はさっきありませんでしたがちょっと言うのを忘れていたので。今高千帆小学校にですね、校舎の裏に体育館の裏に遊具があるんですね。あれは何メートルくらいありますか、石川さん。あの丸い（遊具）。

石川委員

6メートルか7メートルくらいある。すり鉢状の。

藤田委員

すり鉢状の。それが非常に危険だということで中を埋めようということですね、私どもの前をちょうどたまたま下水道工事をやっていたから、泥を捨てているから学校に持って行って埋めてくれないかということで、車が入らないから校舎の北側のところに広場があるから、そこに泥を積んでおいてくれと。そこから地域の皆さんで一輪車を使って運んでみようということで、今どのくらいかな、3分の、半分はまだ埋まってないな。その土がですねもう無いんです。ですからその、教育委員会で予算ができ次第じゃないとできないということで、何とか地域でできないかということで私は業者に頼んで、それで埋め立てやって、それでも工事が終わったから土が無いんですよ。ですからその土をですね、教育委員会の方からこれから近くの業者、工事が出たときにそれをそこに持って行ってもらうとかいうふうなこともお願いできないですかね。

和西中央公民館長

地域の方も一緒にされる。

藤田委員

そうです。

和西中央公民館長

それでしたら、各学校に30万円程度の予算を振り当てておりますので、マサ（土）も当然買えますので。限度を超えたら別ですけど。その辺りをそっちの予算を学校に渡したらいいかなと。

石川委員

その予算がない。だから、マサ（土）を最終的には入れるけど。ある程度は深いものだから残土を入れないと。残土は必要ないんですよ、本当はね。ですけどマサ（土）を少なくするために残土を、藤田会長さんのご尽力によって業者に頼んでわざわざ入れてもらっているんですよ。それを、残り全部の足りない部分をマサ（土）で入れるってなったらとてもじゃないけどお金も費用もすごいかかりますよ。そういうことをやっぱり連携しながら（やった方がいいんじゃないです）。学校の子どもたちも使って保護者の方もやられて協力体制もある程度ならしたり清掃もしてるよ。そういうところをよく考えていかないと。

藤田委員

いまの工事は厚狭の竜三建設がやっているから、そこでどうせ捨てるのだからそこに持って行ってくれと。運搬賃も何もゼロでいいですよと、協力しましょうと。ということでやってもらって、工事が終わったものだから後の残土、泥が無いんですよ。ですから土木課とかそういう関係で、教育委員会のほうからそういうふうな工事が出た場合はそこに持ってってもらえたらなあというふうに思うわけです。今（のままで）、中途半端になってしまうから。マサ（土）を高いお金をかけてやらなくても工事の残土が出た場合ですね。そういう形のところに持って行ってもらえたらなあというふうに思うんですね。最終的には。

下瀬学校教育課主幹

残土についてはですね、教委委員会の工事というのは限られておりますので建設部に問い合わせをしてみます。確認してみます。

藤田委員

そうですね。その方でひとつ確認して、土木課、建築の方にお問い合わせしてもらって。

岡本会長

それでは今の意見交換でいろいろ意見が出ましたので行政の方よろしくお願ひします。それでは長時間にわたりましたけれども第1回の市の公民館運営審議会を終わりたいと思います。進行のまずさで時間がちょっと遅くなりましたがご了承いただきたいと思います。それでは、事務局の方にお返しします。

臼井社会教育課長補佐

岡本会長、どうもありがとうございました。

次回の開催予定はですね、年が明けまして2月を予定しております。本日は教育

長が中座いたしまして大変ご迷惑をおかけしました。重ねてお詫び申し上げます。

以上を持ちまして、平成28年度第1回公民館運営審議会を終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

(会議終了)